

## 土浦の絵葉書



中城通りにあった奥井薬局の絵葉書(部分)



看板部分の拡大  
(小西六特約店とあります)

皆さんは最近手紙を書いたご記憶はありますか。便せんに書くのは大変かもしれませんが、絵葉書は手軽に書ける便利なものです。

絵葉書はいつ頃から使われていたのでしょうか。郵便葉書が登場したのは明治6(1873)年で、同33(1900)年には私製葉書の発行・使用が認められました。同37(1904)年から逋信省が発行した日露戦役記念絵葉書により全国的に絵葉書のブームが起こり、その後さまざまな種類のものが昭和初期頃まで多く出回るようになりました。

絵葉書のなかには、土浦周辺の風景や町並みを取材したものがありません。また、運動会などのイベントや昭和13(1938)年の大洪水のような災害が写し出されたものもあります。情報の伝達手段が限られていた時代、絵葉書はいわば写真週刊誌のように、ビジュアルで人々にさまざまな出来事を知らせることができる貴重なメディアのひとつでした。

土浦の絵葉書は誰がつくったのでしょうか。明治時代末期頃のものに、土浦町にあった柳旦堂や寺田書店が発行元である絵葉書がありますが、多くの絵葉書は発行者や撮影者が記されていないため、明らかではありません。東京の専門業者に製作を依頼する例もあったようです。そのような事情ではありますが、手がかりになる情報がありましたのでご紹介します。

まず、「富山」「Tomiyama」などと記された絵葉書をもとに、桜町一丁目の富山人形店に伺ったところ、かつて大和町の常陽銀行向かい辺りにお店があり、絵葉書の販売もしていたこと、写真は熊木瀧之助氏が撮影していたことがわかりました。ご子息の熊木士郎氏(昭和12年生)によると、

瀧之助氏は阿見に

あった海軍航空隊の写真の技術顧問として東京からやってきたそうです。また、町の製版業者に印刷を依頼し絵葉書を完成させ、筑波山の売店に卸したり、土浦駅前で売り子を使って土産品として販売していたそうです。

中央一丁目の奥井薬局は小西六(のちのユニカ)の特約店をし、写真の現像液などを取り扱っていました。先代の有一郎氏は写真が趣味で、薬局の建物を絵葉書にしたものがあります。また、昭和13年の大洪水のとき、有一郎氏は写真の愛好家を組織してスナップ写真をとり、印刷を小西六に頼み絵葉書にしたそうです。

町には写真の技術者や愛好家、製版業者や販売店の存在がありました。土浦の絵葉書は彼らによってつくられ、さらに人々に購入、使用され、記念に保存もされたようです。写真の絵葉書は現在開催中の「絵葉書にみる土浦」(12月26日まで)でご紹介していますので、ぜひご覧ください。

関 市立博物館(☎824・2928)



(常陸名勝)土浦小松勢至か峯